


「インタビュー術」講座(東京)

～これからの時代の弁理士に必要な「聞く力」を養う～

担当講師		<p>松永光弘(編集家)</p> <p>1971年、大阪生まれ。「編集を世の中に生かす」をテーマに、出版だけでなく、企業のブランディングや発信、サービス開発、教育事業、地域創生など、さまざまなシーンで「人、モノ、コトの編集」に取り組んでいる。日本を代表するクリエイターや事業家、スタートアップの経営者など1000名以上にインタビューを行い、彼らの思想やものの考え方を世に伝えてきたほか、大企業や自治体、大学などで講演を多数実施し、好評を博している。</p> <p>主な著書に『「アタマのやわらかさ」の原理。クリエイティブな人たちは実は編集している』(インプレス刊)、『伝え方——伝えたいことを、伝えてはいけない。』(クロスメディア・パブリッシング刊)などがある。</p>
実施日程	第1回:2024年11月23日(土)14:00-17:15 第2回:2024年12月14日(土)14:00-17:15	
実施場所	弁理士会館(千代田区霞が関3-4-2)※本講座は現地集合での実施となります。	
受講料	20,000円(税込・テキスト代込)	
対象者	<ul style="list-style-type: none">●顧客が気づいていない課題を引き出したいと考えている方●ヒアリングにおいて、顧客から十分に情報を引き出さず、能力不足を感じている方●インタビューのスキルはあると考えているが、他の方のインタビューのやり方を知りたい方●クライアントとの信頼関係を構築可能なヒアリングを短時間の準備でやりたい方●クライアントのブランディング、商品開発等について知財コンサルティングを行いたい方	
概要 ねらい	<p>1)本業における的確なインタビュー能力の位置づけ 近年、弁理士の業務において、特に強く求められるようになってきているのが、クライアントから「本音や実情を聞き出す」能力です。 特許出願書類作成においては、発明内容に加えて、意図や課題意識などをしっかりと聞き出さなければ、そもそも書類が的外れなものになってしまいかねませんし、意匠の場合はデザインの中核ポイントを、商標の場合は将来の事業構想などを把握できるかで、出願すべきポイントも変わってきます。 今後は、書類作成の一部をAIに委ねるようになります。そうすると、「本音や実情を的確に聞き出す」能力がますます求められます。その意味では、的確なインタビュー能力は、AI時代には弁理士として必須条件のひとつになるかもしれません。</p> <p>2)周辺業務におけるインタビュー能力の位置づけ 知財コンサルティングサービスでも、クライアントの実情はもちろん、本人がまだ自覚できていない課題や真の悩みを的確に聞き出すことができなければ、そもそもの提案はできません。</p> <p>3)学べること この講座では、編集者、本の著者、講演やトークイベントのホストなどの経験を通じて</p>	

	<p>1000 人を超える人たちの本音や実情をあぶり出してきた講師から、インタビューの心構えや準備、現場での工夫などについて、原理原則をふまえつつ具体的なテクニックについて講義していただきます。本講義を通じて「本音や実情を聞き出す」ための手がかりを学んでいただきます。</p> <p>的確なインタビューの力が不足していると感じられている方はもちろん、さらにその力を向上させたいと感じられている方のご参加をお待ちしております。</p>
<p>到達目標</p>	<p>●ヒアリング時に必要な考え方・テクニックを理解し、いろんなタイプのクライアントから必要な情報を聞き出すための手法を学ぶ。</p>
<p>形式及び内容 (予定)</p>	<p>【第 1 回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「良質なインタビュー」が「良質な思考」を生む ・ インタビューの基本はあくまで「利他」 ・ インタビューで引き出す「2つの本音」 ・ 「話してくれない」のではなく「気づいていない」 ・ インタビュアーのレベル以上の話は聞けない ・ いい質問をしてもいい答えは得られない ・ 痛感してみよう（ワーク） ・ Q&A <p>【第 2 回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手にふさわしい自分をつくる（事前の準備①） ・ 質問は対話の“燃料”である（事前の準備②） ・ 筋書きがない話は落ち着かない（事前の準備③） ・ ヒントは「話の脱線」のなかにある ・ 「いい脱線」が生まれるのは〇〇を用意しているから ・ すべての話は抽象と具体からできている ・ 気づきを誘発する話法とは ・ それ、ほんとうに褒め言葉ですか？ ・ Q&A
<p>参考書籍</p>	<p>伝え方(松永光弘・著)</p>
<p>注意事項</p>	<p>本講座は、日本弁理士会の「継続研修」の単位認定対象講座です。</p>